

重症心身障害児（者）病棟の患者安全に対する看護師の意識の変化

—繰り返し危険予知トレーニングを行うことの効果—

茗荷仁美¹⁾ 衣笠花恵¹⁾ 山田さえみ¹⁾ 圓井和恵¹⁾ 矢島玲子¹⁾

加藤藍子²⁾ 中川康江³⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 5 病棟

2) 国立病院機構鳥取医療センター医療安全管理室

3) 国立病院機構鳥取看護大学看護学部看護学科

Changes in the awareness of nurses regarding patient safety in the ward for children and persons with severe motor and intellectual disabilities

—Effects of repeated hazard prediction training (KYT)—

Hitomi Myoga¹⁾ Hanae Kinugasa¹⁾ Saemi Yamada¹⁾ Kazue Marui¹⁾

Reiko Yajima¹⁾ Aiko Kato²⁾ Yasue Nakagawa³⁾

1) The 5th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Medical Safety Management Office, NHO Tottori Medical Center

3) Department of Nursing, School of Nursing, Tottori College of Nursing

要旨

昨年度, A 病院 B 病棟に勤務する看護師を対象に, 看護実践自己評価尺度-病棟看護師用-を用いて意識調査を行った. その結果, 患者安全意識の維持・向上には, 危険予知トレーニング (以下 KYT とする) を行うことが効果的であることが明らかになった. しかし, 昨年度の KYT 直後, 質問紙の平均得点は高くなったが, KYT による学習 1 ヶ月後には, 得点の明らかな増加はみられなくなった. その要因として, 昨年度は KYT を 1 回しか行わなかったことが考えられた. そこで本研究では KYT を 2 回行い, その後の意識の変化を調査した. その結果, 看護師の患者への安全に対する意識の変化がみられたため報告する. 鳥取臨床科学 12(2), 68-73, 2020

Abstract

During the previous academic year, we conducted an awareness survey of nurses working in ward B of hospital A using the Nursing Practice Self-Evaluation Scale designed for ward nurses. Our results indicated that hazard prediction training (kiken yochi training: KYT) is effective for maintenance and improvement of patient safety awareness. However, while the mean scores of the questionnaire increased immediately after KYT in the previous year, there was no clear increase in the score one month after learning KYT. This appeared to be

because KYT was performed only once during the previous academic year. Therefore, in the present study, we performed KYT twice and investigated the subsequent changes in awareness. Here, we report on changes in the awareness of nurses regarding the safety of patients. Tottori J. Clin. Res. 12(2), 68-73, 2020

Key words: 重症心身障害児（者），看護実践自己評価尺度，危険予知トレーニング(KYT)，繰り返し学習，患者安全意識; children and persons with severe motor and intellectual disabilities, nursing practice self-evaluation scale, hazard prediction training (kiken yochi training: KYT), repetition learning, patient safety awareness

はじめに

前年度、B 病棟に勤務する看護師を対象に、患者安全のための看護実践自己評価尺度-病棟看護師用-を用いて意識調査を行った¹⁾。その結果、患者安全意識の維持・向上には、KYT を行うことが効果的であることが明らかになった。

しかし、下位尺度別にみると、重症心身障害児（者）病棟看護師の患者安全のための看護実践自己評価尺度-病棟看護師用-では、「下位尺度IV: 安全保障に必要な知識を習得し同僚や患者に指導する」、「下位尺度V: 安全な環境の維持に向けて物品と自らの健康を管理する」の得点が低かった。

また、前年度、KYT 直後の平均得点は高くなったが、KYT の1ヶ月後は得点の明らかな変化は見られなくなった。その要因として、前年度は KYT を1回しか行わなかったことが考えられた。そこで、本研究では、特に低かった下位尺度に着目した事例をもとに KYT を行った。そして、KYT を2回行い、看護師の患者安全意識の維持向上に繋げることを目指した。

I. 研究目的

KYT 実施前の質問紙で得点の低かった下位尺度についての KYT を2回受講することで、重症心身障害児（者）病棟看護師の学習会前後の意識の変化を調査し、検討することを目的とする。

II. 研究方法

1. 研究対象:対象は、A 病院 B 病棟に勤務する

看護師で、研究趣旨の説明を受け研究に賛同した看護師 31 名とした。

2. 研究期間: 2019 年の倫理審査認定後から 2020 年の看護研究院外発表まで。

3. 研究場所: A 病院 B 病棟。

4. 方法

1) 質問紙の使用

患者安全のための看護実践自己評価尺度-病棟看護師用-（以下、質問紙）の使用許諾を医学書院より得て使用した。

2) KYT 前質問紙の実施

質問紙を KYT 前に実施した。KYT 前の質問紙は、病棟対象スタッフに KYT 学習会前に配布し、スタッフステーション内に配置する回収箱で回収した。

3) KYT1 回目の実施

KYT の方法は、1 グループ 4~5 人で実施し、時間は 15 分を目安に行った。KYT の内容は、KYT 前の質問紙の結果に基づいて決定した。

4) KYT1 回目直後質問紙の実施

KYT 直後、質問紙を配布し、その場で記入してもらい回収した。KYT は、研究の趣旨に賛同が得られた対象者全員が参加できるように、複数回同じ内容で行った。

5) KYT2 回目の実施

KYT の方法は、1 グループ 4~5 人で実施し、時間は 15 分を目安に行った。KYT の内容は、KYT 前の質問紙の結果に基づいて決定した。

6) KYT2 回目直後質問紙の実施

KYT 直後に質問紙を配布し、その場で記入してもらい回収した。KYT は、研究の趣旨に